



説教	主イエスの嘆きを知る	……	吉平 真理	……	1
教会の課題	幹に連なるために - 課題と展望の基 -	……	八田 牧人	……	2
旧約聖書に聴く	「コヘレトの『良し!』」(トープ)	……	片野安久利	……	3
信仰問答を学ぶ	「教会を活かす聖霊」(1)	……	多田 滉	……	4
今、教会を考える⑩	福音の他者性	……	金 山徳	……	5
教会、この地とともに⑥	新宮教会	……	大川 治	……	6
	新宮教会 134年のあゆみ	……	帆足嘉代子	……	7
み言葉に照らされて	私は今になって	……	西村 菊美	……	7
	さんびかに生かされて	……	藤守 麗	……	8
	讃美歌との出会い	……	教会ニュース	……	8
	スイッチインタビュー③	……		……	
	青年からの問いかけ	……		……	
	教会ニュース	……		……	

## 主イエスの嘆きを知る

「わたしが五千人に五つのパンを裂いたとき、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」弟子たちは、「十二です」と言った。「七つのパンを四千人に裂いたときには…幾つあったか。」「七つです」…「まだ悟らないのか」(19-21節)  
(マルコによる福音書8章14-21節)

よし ひら ま り  
吉 平 真 理

「わずかなパンで群衆を養う」というよく似た二つの奇跡に、実は深刻な違いがあったことが主イエスの言葉から伺えます。弟子たちに事実を確認させて見えてくるのは、パンの膨らむ割合が減っていることです。その原因が、パン種にあるということです。

ご自分を「天から降って来た生きたパン」(ヨハネ6:51)と呼ばれた主イエスは、「天の国はパン種に似ている」(マタイ13:33)と言われます。粉にパン種を入れて練り、一定の温度を保てばパンが膨らむ仕組みを自然界に造られた神は、神の国も、一定の法則のもとで増えていくよう定められたのです。だから主は警告されました。「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種にはよく気をつけなさい」。

別の福音書には、彼らのパン種は「偽善である」(ルカ12:1)、「イエスが注意を促されたのは、パン種のことではなく、ファリサイ派とサドカイ派の人々の教えのことだ」(マタイ16:12)とあります。つまり、彼らのパン種とは、神の国の膨らみ方に影響を与える思想のことで、それが僅かな言葉でも、人の心に蒔かれると、条件さえ整えば悪い影響を及ぼしていく。その現れが、パンの残量の減少でした。ファリサイ派の人々は、イエスが神の子であるはずがない、と断ずる一方で、証拠のしるしを求め続けました。片や「ヘロデのパン種」とは、世を支配する権力と富を第一にし、社会的地位や立場に固執する考え方です。神を恐れると言いつつ、権威やお金に弱く、周囲の顔色を伺う。信仰があれば免れるというものではありません。恐らく、群衆にも弟子たちにも、こうした教えが入りこんできて影響を与えてい

たのでしょう。あれほどの奇跡を二回も体験しながら、主イエスを信頼するに至らない。主がどんな方で、何を警戒しておられるかが分かっていない。だから、一つのパンしか持ち合わせていないことが、議論になりました。奇跡的に増えたパンで満腹しても、その意味が分からないから、空腹を覚えればパンを持ってこなかったと残念がる。それで、あの体験が生きていなかったと分かるのです。

パン種と聞いて、パンを忘れたことを主が咎めていると誤解した彼らには、空前絶後の体験すら、今を生きる判断材料にはなりません。そこに主の嘆きがあります。的外れの議論に「分からないのか…心がかたくなになっているのか」。むしろ、この方が共にいてくだされば大丈夫。そう信じさえすれば、パンは、一つで足りるはずでした。わたしたちも、同じ間違いをしてはいないでしょうか。主の真意を誤解して自分を窮屈にし、せっかくの恵みのみわざを味わっても、それが新しく生きる発想に結びつかないとしたら。主イエスは、人を満腹にさせることがおできになるばかりか、命のパンとして、「わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」(ヨハネ6:35)と豊かに生きられることを約束されました。

神に与えられた恵みの数々、格別に救いのみわざを思い返し、それを踏まえて新しく生きること。幾度も御言葉の約束を掘り起こし、繰り返し感謝し、主との交わりを楽しみ、そうした恩恵によって今があり、これからも守られ導かれていくという信仰に立たせていただきます。 (東京中会教師試補)